



# 学校だより

令和2年6月30日

7月号

学校教育目標  
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



## 「いのちって、なに？」

校長 住田 昌治

先日、一人の保護者の方が校長室にいらっしゃって、こんな話をされました。

「休校中、子どもと一緒にテレビを見ていたら、安倍首相も小池都知事も『いのちを守る』『いのちが大事』と何度も言われていました。それはそうだよなと思いながら聞いていたのですが、『いのちって、なに？』と子どもが聞いてきました。『…』いのちは、いのちだよなと思ったのですが、どう答えていいのか考えました。私なりの考えはあるのですが、子どもに分かるように伝えられるかどうか。これは、校長先生にお願いしようと思って来ました。」（安倍首相は何て答えるのだろう？）

子どもにとって、見えない「いのち」を守るとか大事とか言われても、そもそも「いのち」って何だろうと疑問がわいてきたのですね。なかなか、いい問いです。「いのちとは何か？」どう答えますか？休校中の学びとしては、どんな課題よりも質が高い学びです。

私は、「命の授業」を実践している方々に知り合いがいますが、「いのち」をどのように子どもに伝えるかは様々です。握手をして温かさや温もりを感じさせたり、脈拍を数えたり、聴診器で心音を聞いたり、先祖代々からのつながりを数えたり…しかし、なかなかピンときません。

「いのちの授業」を全国で実施されていた日野原重明さんは、「命は私たちに与えられた時間です。」と話されていました。小学校の子ども達にも、「いのちは見えないもの。しかし、いのちは君たちがいつも持っている、今も持っていて、そしてそれを自分のために使っているのではないか。心臓はいのちを保つために、脳に酸素と栄養を血液によって送って人間が考えることができるようにさせ、同じく手足に血液を送って動かせるようにしています。いのちを支えるのに心臓はポンプの働きをしています。しかし、心臓がいのちではありません。いのちは自分でどうにでも使える自分が持っている時間なのです。」と話されていました。そして、限りあるいのちだからこそ、草木のいのち、動物のいのち、人のいのちを大切に生きていくように勧められました。

自分に与えられた限りある時間を、自分のため、人のため、社会ために使うことが生きているということなのです。そう考えると、毎日を生き生きと楽しく暮らさないともったいないですね。

生き生き日枝っ子が、コロナ禍の中にあっても、自分のいのちである時間を有意義に使って、自分たちの学びを自分たちでつくり、自分たちの生活を自分たちでつくることを願いながら、学校の通常授業の再開を迎えます。引き続き、日枝っ子、日枝小学校の応援よろしく願いいたします。